

平成28年度取組状況

ものづくり工学科（所属コース）

教授

保 福 一 郎

取 組 状 況	
教育	<p>固有値・固有ベクトルの有用性を学生に意識させ学習意欲を向上させる試みとして、3400クラス線形代数学IIの後期末の授業4回分を用いてアクティブラーニングを実施した。初年度の導入ということもあり教材作りに多くの時間を費やしたが、学生は概ねまじめに取り組んだ。各授業終了後のアンケート調査結果を調べても、学生の意識変化が実感できた点を考慮すれば今回の授業の試みは成功であったと考える。現在、学生のアンケート結果の詳細を検討しつつ、成果をまとめH29に論文として発表する予定である。また、この試みはH29年度も引き続き継続する。</p>
研究	<p>近年の複雑ネットワークにおける複雑性の尺度は主に分布の偏りを表すものであり、偏りの大きさが複雑度に反映される。一方、本人が開発するノードクラスタリング法では、情報入出量に着目した複雑度を定義しているため、両者のモデルの複雑量は、根本的に互いに交わり合わないものである。今年度では様々な特性を持つ有向グラフに対し、互いの複雑度の尺度の比較・検討を行い、両モデルが持つ複雑度の比較・検討、及びそれぞれのモデルの有用性の炙り出しを行った。両モデルの共通性を見いだす目に見えた成果をあげることは出来なかったが来年度も引き続き、研究を継続していく。</p> <p>査読付論文 I.Hofuku and T.Yokoi, A Method for Analyzing Graph Structure Using the Node-Clustering Algorithm, INFORMATION, Vol.19, No.6(B), pp.2057-2063, 2016(June).</p>
社会貢献	<p>本校地域交流室がとりまとめているシーズ集に登録しており、地域の技術協力に貢献している。今年度は、学校PRのため、牛込第一中学校に出向き、出前授業を行った。</p>